2014. 12. 12.

おーい図書館 No.173

発行 おーい図書館
代表 青木和子
松戸市牧の原1-104-416
TEL 047-311-0886

図書館シンポジウム
「私たちの図書館の未来を考える」

報告 塩崎俊一

11月15日(土) PM1:30～4:00、市民会館301号室で開催。(定員100名)

予想を越える盛会で、市民の関心の高さをうかがわせた。

○挨拶と報告

・伊藤教育長：以前訪れた米ウィスコンシン州の学校図書館の例→学校の中心に図書館があった。文化の中心は図書館である。松戸駅東口再開発においては、中心に図書館を置きたい。

・中川図書館長：松戸市図書館整備計画審議会の推移を報告。

○基調講演

「松戸市立図書館のこれからを考える」

講師：大串夏身氏(松戸市図書館整備計画審議会副会長・昭和女子大学教授)

・NHKで報道された図書館「図書館活用術」より、奈良県立図書館(世界に広がる"攻めの図書館")、長野県小布施町立図書館(まちとしょテラソ→まわり・まち・こころを照らす)、鳥取県立図書館(知的立県、読書を通じた人づくり)等の図書館を取り上げ、新しい試みの実例として紹介された。

・新しい時代の到来と図書館

「第三の情報革命の時代の到来」として、コンピューター情報通信ネットワークを基盤とした新しい社会は、知識・情報が今以上に重要な役割を果たす。

㊟第一の情報革命→紀元前7世紀、ギリシャで子音のアルファベットに母音が組み合わされた話し言葉をそのままパピルスに書き取り、流通するようになった。

第二の情報革命→1450年代から、紙と活版印刷の組み合わせで、紙に大量の知識が印刷され、流通するようになった。

日本の情報化に大きな役割を果たしたのは「ひらがな」の完成→平安時代、宮中の女性が完成させた。

・松戸市図書館のこれからを考える。現状のサービスを見直し、新しい時代の松戸にふさわしい図書館

づくりを目ざすこと。
地域資料の充実に務め、博物館や学校図書館との連携を深め、住民自らの図書館での活動をすすめること。
なにより、図書館は明るくないといけないと強調された。

○パネルディスカッション
コーディネーター
大串夏身氏
パネリスト
小池信彦氏(調布市立図書館長)
柳澤潤氏(東京工業大学准教授、審議会委員)
森めぐみ氏(松戸市社会教育委員、審議会委員)
澤谷奈緒美氏(松戸市社会教育委員、松戸市立松ケ丘小学校校長、審議会委員)
青柳洋一氏(松戸市教育委員会生涯学習部長、審議会委員)

・小池氏:調布市概況→新宿から特急で15分、面積約21㎢、人口約22万人(毎年約1000人の増加が続いている)。
市立図書館概要→蔵書約130万冊、中央館と10分館、「どこでも」歩いて10分で図書館利用可(人口2万人・小学校区2つ毎に一館)、待っている図書館ではなく「出かける」図書館(宅配サービスなど)、「日本一」役立つ・満足できる図書館に!
今後の課題→若い職員の育成(5年間で15人の司書採用を)、施設の老旧化対策など。
松戸の図書館について→「身近な所に図書館を」という政策は間違ってなかったと思うが、S40年代と現在とでは図書館規模に天と地の違いがあるのが現実。
実際に使う人の意見をどれだけ入れられるかが大切。

・柳澤委員:長野県塩尻市立図書館の紹介→人口6万人だが、毎年延べ63万人の来館。図書館が交流の場となって、街を繋ぐ存在になっている。
図書館は本に囲まれているが、壁に囲まれるのとは違う。塩尻図書館は、書架の配列の工夫で空間を作っている。そのために長い年月をかけて決定した。
塩尻の図書館建設については、初期段階から市民を巻き込んで時間をかけて進めたので、開館時はデパートやスーパーの開店のような盛況だった。
・森委員:本の力の大きさ、図書館は「知の広場」と力説された。
・澤谷委員:学校生活の中での本の役割は人とのつながりを生み、生涯にわたる学びへと繋がる。
長期的には、学校図書館司書の常駐を、短期的には、学校図書館と公立図書館を繋ぐコーディネーター

配置を望む。

子どもたちの平日の公立図書館利用は難しいが、オンラインで結び、蔵書の共有が出来たら良い。

・青柳委員：松戸市の現状→本館は築41年（県で5番目に古い）、延べ床面積は約1,930㎡で県平均の半分以下。司書割合は31%（県平均50%）、蔵書数は県内最低。

今後の松戸の図書館についての個人的意見→図書館における情報を仲立ちとした人と人とのつながり、交流を生み出せたら良い。

市民の知識・情報を図書館に持ち寄り発信・活用することで、市の発展につなげたい。

70～80年代、図書館は駅から遠くても静かな所にといわれたが、現在は駅に近い所が増えている。

松戸駅東口再開発では、回遊性を考えた街づくりを目指して、これから議論を深めたい。

図書館は、これからの街づくりに大きく貢献する公共施設であることは確実だと思っている。

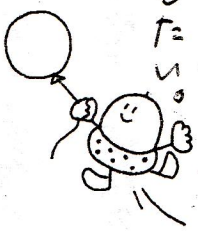
○参加した感想（塩崎）

休憩時間に質問・要望を参加者に求められたので、それに応える形の参加型パネルディスカッションを期待したが、時間調整が悪かったのか時間切れになり、その場は未消化となった。早い時期に次回シンポの開催を求めたい。

市議選期間中のシンポ開催も疑問だが、熱心な市民には若い人が少ないことも課題。

次回は、議員・小中高生・博物館員等の参画も検討して頂きたい。

課題は残ったが、今回実施されたことは評価したい。



第四回
松戸市図書館整備計画
審議会（以下審議会）

報告　青木和子

11月20日(木)午後7～9時、松戸市教育委員会会議室（京葉ガスビル5階）で開催。冷たい雨の中を4名が傍聴しました。（定員10名）

○議題

Ⅰ、図書館シンポジウムについて（報告）

Ⅱ、提言について（基本方針等）

Ⅲ、その他

Ⅰ、シンポジウムでのアンケートには、基調講演・パネルディスカッションについて、様々な角度から多様な意見が出ていた。

若者・子どもの参加が欲しかった。

今回のシンポジウムを次につなげる必要あり→来年も開催したい。

参加者のレベルの高さ・真摯さを感じた。

Ⅱ、松戸市図書館整備計画策定に関する提言書について

●基本的な考え方

1、「くらし」に役立つ図書館

2、「知」と出会い、人と人をつなぐ図書館

(1)学び合い交流する場の整備

(2)多様な機関紙と連携した生涯学習の支援

(3)学びのコーディネート機能の実現

3、誰もが利用しやすく親しみやすい図書館

(1)快適で利用しやすい図書館施設の整備

(2)誰もが等しく利用できる図書館サービスの充実

(3)親しみやすく、くつろげる空間の工夫

4、「まつど」の歴史と文化を伝える図書館

(1)歴史と文化に関する資料の収集と保存

(2)歴史と文化に関する情報の発信

(3)博物館・戸定歴史館など、関係機関との連携

5、本を通じて子どもを育む図書館

(1)子どもの成長過程に応じた読書活動と学習活動の支援

(2)学校及び学校図書館との連携

(3)ボランティアなどの育成・支援・連携

6、自ら学び、人を育てる図書館

(1)計画的な人材育成

(2)専門職員(司書)の育成

(3)図書館職員の研修の充実

●計画の策定にあたって

松戸駅東口再開発は図書館などの公共施設から成る生涯学習の拠点にしたい。

審議会の提言に基づく具体的な計画を立て、松戸市の未来に合致した図書館の全体像について、既存の施設の見直しも合わせて考えたい。田地建設などで松戸が最先端だった頃の「ワクワク感」を、再び図書館で感じたい。

住民が「ふるさと」を感じられるような「松戸らしい」図書館を、また各分館には「地域らしさ」を導入する。人との出会いや交流が生まれる公民館的役割を持たせる。

支所・市民センターの共用部分を閲覧室として使うなど、全体をオープンスペース化する。

子ども読書推進センター・本館一階には、図書館の大事な役割である「子どもを受け入れる」ためのしつらえが施されていない。児童室の外に隔離されたような読み聞かせの部屋も含めて、もっと自由にオープンスペース的使い方を!

市内の大学図書館や東葛地区の図書館との連携を進めたい。